

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F130110109356	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	和歌山大学	設置区分	国立	事業計画名	和歌山大学における学部・大学院を通じた高度情報専門人材の育成事業～情報教育を基盤とした高度情報複合系工学人材の育成に向けて～
学校種	大学	都道府県	和歌山		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 129名、<学士> 290名 システム工学部システム工学科 入学定員290名 システム工学研究科システム工学専攻（博士前期課程）入学定員129名 システム工学研究科システム工学専攻（博士後期課程）入学定員8名	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 129名、<学士> 290名 システム工学部システム工学科 入学定員290名 システム工学研究科システム工学専攻（博士前期課程）入学定員129名 システム工学研究科システム工学専攻（博士後期課程）入学定員8名	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員3名公募） ②10月 本事業推進にかかる事務体制の整備：特任事務職員採用（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務1名、広報関係や教員サポート業務1名） ③情報教育の充実のため本学北1号館情報処理室の改修、学生増による入試実施に向けた準備(募集要項等整備・公表)	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員3名公募） ②10月 本事業推進にかかる事務体制の整備：特任事務職員採用（広報関係や教員サポート業務1名） 【承認日：R6.12.20】 ③情報教育の充実のため本学北1号館情報処理室の改修、 西5号館情報処理演習室の教育環境の整備 、学生増による入試実施に向けた準備(募集要項等整備・公表) 【承認日：R6.12.20】		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 140名、<学士> 320名 4月 システム工学部システム工学科 30名増員（入学定員320名） ※学部情報学領域の定員を110名から140名へ30名増 4月 システム工学研究科システム工学専攻（博士前期課程）11名増員（入学定員140名） ※大学院情報系クラスターの定員を65名から76名へ11名増		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員3名採用、教員3名公募） ②本事業推進にかかる事務体制の整備：特任事務職員（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務1名、広報関係や教員サポート業務1名）及び事務補佐員雇用（業務サポート事務補佐員5名） ③情報教育の充実のための北1号館講義室の教育環境整備 ④自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の整備 ⑤情報教育充実のための非常勤講師採用（3名）			
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 140名、<学士> 320名		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員3名、教員3名採用、実務家教員2名公募） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④大学院の社会人学生受け入れ拡大のための通局授業環境整備 ⑤R9年度の大学院の再編に向けた教育研究・学修管理システムの改修 ⑥教育充実のための非常勤講師採用（3名）			
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 140名、<学士> 320名 4月 システム工学部システム工学科 教育組織の再編 「情報創成クラスター」の新設、ダブルクラスターの導入		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名採用） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 140名、<学士> 320名		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④大学院定員増による入試実施に向けた準備(募集要項等整備・公表) ⑤高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 154名、<学士> 320名 4月 システム工学研究科システム工学専攻（博士前期課程）14名増員（入学定員154名） ※大学院情報系クラスターの定員を76名から90名へ14名増		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 154名、<学士> 320名		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 154名、<学士> 320名		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 154名、<学士> 320名		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開			
令和15年度	【情報系組織の入学定員】<博士> 8名、<修士> 154名、<学士> 320名		R15年度自己評価	リストから選択してください。
	①システム工学部及びシステム工学研究科学生数増及び情報教育充実のための教育体制の整備（教員6名、実務家教員2名） ②本事業推進にかかる事務体制の整備（情報処理補助や自治体・企業との連絡調整業務の特任事務職員1名、広報関係や教員サポート業務の特任事務職員1名、業務サポート事務補佐員5名） ③自治体や企業等と連携した情報教育を推進する「情報教育推進研究センター（仮称）」の運用 ④高大連携/大学間連携の促進に向けた取組の展開 ⑤助成期間終了に当たっての総括点検と評価の実施			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	和歌山大学
-------------	-------	-----	-------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	和歌山大学
-------------	-------	-----	-------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・これまで和歌山大学では、総務省統計局、独立行政法人統計センター及び和歌山県とデータサイエンス分野における連携協定を締結し、4 者が連携した情報系に関する教育研究の推進、さらには、（株）オークワ（株）松源とも連携協定を締結し、POSデータなどを活用した購買情報分析を実施するとともに、（株）紀陽銀行とのマーケティングデータ分析及び和歌山県立医科大学（令和6 年4 月開設予定の同大学「データサイエンスセンター（DSC）」と継続的に連携協力予定）等との共同による医療データ分析の実施など、多様な領域に係る情報データを活用した教育研究を実施してきた。 ・さらに、クオリティソフト（株）とクラウド技術の研究と教育に関する包括協定を締結し、共同研究講座「レジリエントクラウド共同講座」を設置し、新たな世代のクラウド人材の育成を目指している。 ・これまでの自治体や企業等との取組をさらに発展・充実させていくことで、システム工学部及びシステム工学研究科における実践的な情報教育や研究の高度化につなげていくこととしており、上記の企業からは、本計画の趣旨に沿った情報系人材の育成への協力について理解を得ている。 ・従来の自治体や企業と連携した取組をさらに融合・発展させていくため、令和7年度に「情報教育推進研究センター（仮称）」を新たに本学内に設置し、当該センターを拠点として様々な自治体及び企業等との産学官金が連携協力した共同研究及び共同講座の実施拡充等を推し進め、これらの取組の成果を「高度情報複合工学系人材」の育成に向けた教育研究に生かしていく。	・和歌山大学では、これまで、総務省統計局、独立行政法人統計センター、和歌山県、（株）オークワ、（株）松源、（株）紀陽銀行、和歌山県立医科大学と多様な分野や領域で情報やデータを利活用した教育研究を実施してきた。令和6 年度においても、継続して情報教育の推進及び充実を図るための教育研究を実施している。それらの連携の取組の1 つとして、令和6 年12月6日（金）～8日（日）にクオリティソフト（株）INNOVATION SPRINGS（白浜町）にて「和歌山データサイエンスハッカソン2024」（総務省統計局、和歌山県、データ関連人材育成関西地区コンソーシアムなどの後援、和歌山県情報化推進協議会（WIDA）の協賛、（株）オークワ、クオリティソフト（株）協力）を開催。株式会社オークワ提供のPOSデータを用いてデータ分析を行い課題発見・課題解決能力を競い合う同大会において、システム工学部の学生グループが金賞、銀賞、銅賞を受賞した。 ・クオリティソフト（株）と共同研究講座「レジリエントクラウド共同講座」を設置し、新たな世代のクラウド人材の育成への取組を行っている。その取組の一環として、令和7 年2 月5 日（水）に公開講義イベント「Beyond Next～分散の力で未来を変える～」を開催し、これまでの成果の共有を行った。 ・自治体や企業との連携をさらに進め、産学官金が連携した教育研究を推進すべく、令和7 年4 月に「データ・インテリジェンス教育研究センター」を設置した。令和7 年度は、本センターの施設整備をはじめ、自治体や企業との連携を充実・拡充していくための基盤づくりを行う。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・和歌山大学においては、これまで和歌山県や大阪南部の高等学校における出前講義や公開授業の実施及び進学説明会の開催など、高大連携の取組を推進してきており、さらに、令和4年度「情報」科目の必修化に伴い、情報系分野の学習においても学校現場の取組みを積極的に連携し支援している。 ・高等学校在学中に、本学の情報系科目を履修することで、本学入学後に既修得単位として認定する制度を創設（令和8年度を目途に創設予定）し、システム工学部情報系への進学を志す契機としていく。これにより高校段階から情報系分野への進学を意欲ある意欲ある人材の獲得につなげていく。 ・令和7年度からは、システム工学部において「学校推薦型選抜（女子枠）」を創設し、学修環境のダイバーシティ化を進め、多様な学生による教育研究活動の活性化を促進する。これは、和歌山県の高専学校長会からの要望に基づくものであり、このような要望に応えつつ、高大連携をさらに推進し、女子学生を対象とした「高度情報複合工学系人材」の育成にも注力していく。 ・また、和歌山県内のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）指定校を対象として、本学の教員や大学院生を派遣し研究指導等を行うなどの支援を行ってきた。このような取組を継続的に実施することを通して、高校生の情報系分野に対する興味・関心を引き出し、本学のシステム工学部情報系志願者の増加や、初等中等教育段階における情報系人材育成の充実の足掛かりとしていく。 ・小学校においては、授業におけるタブレット端末などのICT機器の活用やプログラミング教育等、学校現場における授業実践の実施及び教員研修支援を行っている。さらに、中学校では、データの利活用の基本的な知識や技術を習得するための先進的な授業実践の開発・実施を学校と協働で行っている。	・令和6 年度においても、和歌山県や大阪南部の高等学校への出前講義や進学説明会の開催を行うなど、高大連携を進めてきた。特に、高等学校における「情報」科目の必修化に伴う高等学校教員への支援ニーズが多く、それらについても積極的な支援を行った。 ・高等学校在学中に、本学の情報系科目を履修することで、本学入学後に既修得単位として認定する制度については、和歌山県教育委員会等とも連携し、実施に向けた枠組みとして、令和6 年度中に関係規程等の整備を行った。今後は、和歌山県教育委員会等とも調整しつつ、本格的に実施していく。 ・システム工学部において、新たに「学校推薦型選抜（女子枠）」を設け、令和7 年度から学生募集を開始した。令和7 年度においては、34名の志願者（募集人員10名）があり、13名が入学した。 ・令和6 年度においても、和歌山県内のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）指定校を対象とした、本学の教員や大学院生を派遣し研究指導等を行うなどの支援も行った。 ・小学校において、情報教育（授業におけるタブレット端末などのICT機器の活用やプログラミング教育）の支援や教員研修支援を行った。また、中学校においては、データの利活用の基本的な知識や技術を習得するための先進的な授業実践の開発・実施に対する支援も行った。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
＜女子学生＞ ・令和7年度から、システム工学部において「学校推薦型選抜（女子枠）」を新設する。多様な学生の受入によるダイバーシティ化を実現することで、教育研究の活性化やイノベーションの創出を目指す。その中で、情報系を目指す意欲ある女子も受け入れ、女子学生を対象とした「高度情報複合工学系人材」の育成にも注力していく。 ＜社会人学生＞ ・令和9年度における大学院ダブルクラス制の導入に伴い、社会人学生のニーズに対応すべく、オンラインによる履修や指導ができる体制を構築することとし、入学者の増加を目指す観点からも情報系の社会人学生を積極的に受け入れていく。社会人学生が有する社会での実務経験の共有、内部進学学生との交流・共同による教育研究活動の促進により、内部進学学生の実践力の向上やスキルアップなど、社会人と内部進学学生とのシナジー効果を生み出していく。 ＜留学生＞ ・本学は、世界21カ国、58大学と大学間交流協定を締結しており、システム工学部やシステム工学研究科では、交流協定校から交換留学生を受け入れている。また、国費留学生についても積極的な受け入れを行っている。なかでも、ここ数年は、情報系を志望する留学生が多く、今後、情報系を志望する留学生を積極的に受け入れていくことで、国際的通用性のある教育研究を推進していく。	＜女子学生＞ ・システム工学部において、新たに「学校推薦型選抜（女子枠）」を設け、令和7 年度から学生募集を開始した。令和7 年度においては、34名の志願者（募集人員10名）があり、13名が入学した。 ＜社会人学生＞ ・大学院ダブルクラス制の導入に向けた制度設計や教育課程の再編について、令和6 年度に学部内で検討を始めたところである。令和7 年度には、具体的かつ詳細な検討を行うこととしており、その中で、情報系の社会人学生の獲得に向けた仕組みや社会人学生の経験や実践知を学部・大学院での教育研究にどのように活かしていくかなど、これからの社会人学生のあり方について検討を行う。 ＜留学生＞ ・本学における大学間交流協定の枠組みの中で、令和6 年度に、システム工学部においてグランデ・ドラードス大学（ブラジル）から1名、江原大学（韓国）から1名、慶北大学（韓国）から1名の交換留学生を受け入れた。また、マレーシア政府派遣留学生5名を、バキスタンから国費外国人留学生（研究留学生）2名を受け入れた。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・システム工学部では、3 年次編入制度（入学定員20名）を設けており、近隣の高等専門学校から編入生を多く受け入れている。また、高等専門学校専攻科修了者の大学院への受入を促進するため、5 校の高等専門学校（大阪公立大学工業高等専門学校、和歌山工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校、明石工業高等専門学校）と大学院入学者選抜の学校推薦に関する連携協定を締結し、システム工学研究科への進学を促進してきた。今後は、高等専門学校との連携協定の拡充も含め、高等専門学校で情報系の技術を修得した学生の受入を促進していくことで、「高度情報複合工学系人材」の育成につなげていく。 ・本学は、「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム」に加盟しており、協定校6大学（大阪大学、神戸大学、滋賀大学、奈良先端科学技術大学院大学、和歌山大学、大阪公立大学）と連携機関（京都大学、国立情報学研究所など5 機関）、連携企業（あいおいニッセイ同和損保、株式会社アイディーエス、JR西日本旅客鉄道株式会社、第一生命グループなど10社）と連携したデータサイエンス、データエンジニアリング、データアナリシスなどの情報系専門人材の育成に取り組んでいる。協定校5大学は、既に昨年度、「大学・高専機能強化支援事業」に採択されており、本学としても、当該コンソーシアムにおいて他大学や他企業との連携を進めていく中で、本計画を着実に実現していく。 ・「モンゴル工学系高等教育支援事業（M-JEED）」の一環として、モンゴル科学技術大学とのツィニング・プログラムを実施しており、このような海外大学との共同による学生育成事業等を通じて、情報系人材の育成にも注力していく。	・令和6 年度においても、高等専門学校との連携協定に基づく情報提供などを行い、優秀な3 年次編入生の獲得に向けた取組を行った。令和7 年度第3 年次編入学選抜においては、推薦編入学選抜で10名の志願者（募集人員10 名）、一般編入学選抜で37名の志願者（募集人員10名）があり、合計で12名が入学した。そのうち、高等専門学校出身者が8 名であった。 ・令和6 年度も、「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム」を通じた情報系専門人材の育成にかかる取組を実施した。特に、令和6 年12月6日（金）～8日（日）にクオリティソフト（株）INNOVATION SPRINGS（白浜町）にて「和歌山データサイエンスハッカソン2024」（総務省統計局、和歌山県、データ関連人材育成関西地区コンソーシアムなどの後援、和歌山県情報化推進協議会（WIDA）の協賛、（株）オークワ、クオリティソフト（株）協力）を開催し、協働して学生の教育研究の活性化につながる取組を行った。 ・モンゴル科学技術大学とのツィニング・プログラムについては、令和6 年度において、学生の受け入れは行ってはいないものの、「モンゴル工学系高等教育支援事業（M-JEED）」におけるモンゴル科学技術大学との連携や当該事業に参画する国内の大学との連携を通じてグローバルな情報系人材の育成にも注力している。さらに、大学間交流協定を通じた交換留学生の受入れ(令和6 年度はグランデ・ドラードス大学（ブラジル）から1名、江原大学（韓国）から1名、慶北大学（韓国）から1名）なども積極的に行っている。	

大学名	和歌山大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	-------	------	---------------------------

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	304,872																		

特記事項